

・・・・・・「史料紹介コーナー」・・・・・・

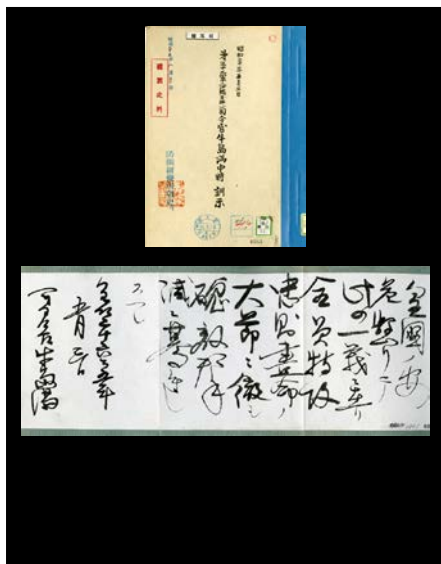
平成28年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎号一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 <sup>うしじま</sup> <sup>みつる</sup> 牛島 満 1887~1945年 》  
 一鹿兒島県出身の陸軍大将一



**陸軍士官学校学生心得** (登録番号：中央-軍隊教育教育史料-571)

牛島満大將は、明治41年5月、陸軍士官学校(20期)を卒業後、歩兵第36旅団長として支那事変に従軍、武漢攻略戦などに参加したのち、陸軍予科士官学校長兼陸軍戸山学校長、第11師団長、陸軍公主嶺学校長の要職を経て、昭和17年4月1日、陸軍士官学校長に就任します。陸士校長を2年4か月ほど務めますが、その間の昭和18年12月1日、「陸軍士官学校学生心得」を定めています。本心得は、兵科少尉候補者(己種学生)及び特別志願将校(丁種学生)が在校間遵守すべき事項を規定したもので、「学生ハ建軍ノ本義ニ則リ自ラ挺シテ軍隊ノ中堅將校タルヲ期シ」、堅確なる軍人精神の鍛練、高潔なる品性の陶冶、強健なる身体の鍛練などの修得に精進するよう求めています。巻末には、座間の陸軍士官学校配置要図も添付されています。



**第32軍司令官牛島満中将訓示** (登録番号：沖台-沖縄-54)

昭和20年4月1日、猛烈な艦砲射撃のあと沖縄本島中部西海岸へ上陸を開始した米軍は、4月5日から全線にわたって攻撃を開始します。陸士校長から沖縄の第32軍司令官に就任した牛島中将(昭和19年8月8日付)は、陸海軍の航空部隊による総攻撃と戦艦大和をはじめとする海上部隊主力をもってする海上特攻に呼応して反撃を繰り返しますが、失敗に終わります。米軍上陸から一か月後の5月3日、牛島中将は、5月4日早朝からの総反撃を決心します。この史料は、第32軍最後の総反撃にあたり、牛島軍司令官が各部隊長に与えた訓示を長勇総参謀長が筆記した「第三十二軍司令官牛島満中将訓示」で、「皇国ノ安危懸リテ此ノ一戦ニ在リ全員特攻忠則盡命ノ大節ニ徹シ醜敵撃滅ニ驀進スヘシ」と記されています(他に、「第三十二軍司令部 日々命令綴」登録番号：沖台-沖縄-41)。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。  
 防衛研究所企画部企画調整課  
 専用線：8-67-6522、6588 (史料紹介コーナーのみ6668)  
 外線：03-3713-5912  
 FAX：03-3713-6149 ※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.go.jp>